

今期のテーマ

「現状を肯定的に否定する挑戦者たれ」

「今よりもっと良くしよう」という仕事に対する責任です。人は、自分自身や現状を否定されたくありません。しかし、それは成長しない人でもあり、自分自身を否定する勇気を持つ人間のみが成長するのです。前期において、我々は大きく反省する機会を得ました。そこで、現状を肯定的に否定して大きく変わりませんか。「変わらない＝現状維持」は衰退と同じです。失敗や間違いはチャレンジした結果なので、何もしないと成長はありません。問題は失敗することではなく、何もしないことです。世の中は、我々の思っているスピード以上に動き、変化しています。だからこそ、ときには現状を肯定的に否定し、行動する必要があります。従業員全員が生まれ変わり、自らをアップデートしましょう。

今期から新たなサービス、冷凍冷蔵物流センター事業が加わります。コロナ禍において食品のEC需要が増えたため、和泉ECセンターの1階部分に冷凍冷蔵設備を導入するのです。前期の反省から、1社への依存比率を下げることを意識し、最小ロット1パレットからの保管、月額出荷ゼロでも受託します。常にお客様と対等な立場を保つことが重要です。本当にお客様の事を思うならば、ときには違う意見を代替案として提示しましょう。また、お客様の数が増えるとオペレーションが複雑になります。ベンチマークを行い、基本的な流れは学びますが、オリジナルなシステムも構築しましょう。そしてどんなに複雑なものであっても、難なく対応できるよう、努力しましょう。

今期の目標

- 現場従業員の意識改革**
社員を中心とした勉強会を毎月開催し、専門知識を学びます。「今、業界で何が起きているのか？」について学び、今までより視野を広げた人材を育成します。
- パートさんのトレーニングを定着化**
目的は属人的な作業を辞めること。決められたルールを徹底的に守り、作業の平準化と効率化に挑戦します。定期的に行い、質を高めます。本社、和泉センター両方で実施予定です。
- 光熱費の削減**
冷凍冷蔵設備には膨大な電気代がかかります。電源供給時のデマンド管理も行い、無駄な電力消費を抑えましょう。
- 3S活動の活性化**
3S活動を外部から学んで5年目になりますが、まだまだ行き当たりバッタリです。より多くの人を巻き込むために、3S活動委員会を作ります。
- 徹底した衛生管理**
和泉センターの1階では食品を取り扱っていきます。日々の清掃活動は無論、汚れない努力もしましょう。今までの感覚で考えてはいけません。どこをとってもキレイな状況を創ってください。

- チェックリストシステム(アニー)を活用したチェックリスト作成**
社員は無論、パートリーダーを含む主要な人員にはアカウントを作り、現場で活用。今までアナログでチェックしていたものを全てデジタル化し、作業の平準化を目指します。フロントではお客様対応・請求書作成・備品管理。現場では、残荷チェック。営業ではお客様へのヒアリング・訪問日。総務では入退出・入金確認。それぞれのトレーニングにも連動した、チェックリストを作成し、オペレーションの複雑化にも対応します。
- 営業活動の工夫**
営業コンサルとのテレポやDM発送でリード顧客年間200件を目指します。MAを活用したリード顧客へのアプローチにも、更なる工夫を追加。またロジデザインのHPをリニューアルし、サービス内容をわかりやすく伝えます。コンテンツは社員だけでなく、従業員全員で考えます。フロント事業部では、既存顧客への営業アプローチを行い、問題点を解消する窓口にします。「何かございませんか?」と声を掛けることです。事務的に業務をこなすだけではなく、知識が必要です。そこで、ミーティングで不足する部分を浮き彫りにし、学ぶ機会を創ります。そして出荷のないお客様へのメッセージ等、工夫を凝らしてお客様に寄り添った対応をしましょう。ニーズ(顕在的欲求・見えていない)、ウォンツ(潜在的欲求・見えていない)が見える人材を育成し他社に真似できない強みを創ります。

- 抜本的な現場改善**
本社では、ハイピックランナーを設置して高層階のピッキングができるレイアウトを構想中。まずは本社2号棟からスタートします。また、本社1号棟ではかご車を活用し、お客様の配置を変え、リフトでの作業をなくします。「MOVE FIRST、まずは動け!」です。
- ベンチマークの体系化**
同業種やお客様への現場ベンチマークを積極的に実行。目標年間20件(同社可)を目指し、訪問の段取りから訪問先へのお礼までの段取りを体系化します。「百聞は一見に如かず」、単なるベンチマークで終わるのでなく、学びを共有しましょう。
- 倉庫見学会(オープンロジ)の開催**
おもてなしの精神で、お客様を迎える倉庫見学会を開催します。見学者は個人・法人問わず金融機関や協力業者も。冷凍冷蔵倉庫やクラウドWMSを見せ、トレーニングルームの体験を実施。ZOOM等オンラインでも対応します。
- 外国人実習生の雇用**
ベトナムから3名の実習生を受け入れます。現在、感染の影響により入国が遅れていますが、新たな戦力となるよう、しっかりと関わってください。研修も行い、準備はできています。学んだことを活かし、多様性を受け入れましょう。
- オンラインの活用**
現在、営業ではZOOMやGOOGLE MEETを活用していますが、社内や既存顧客とのやりとりには使えていません。移動する手間をなくす便利なツールなので、熟知しましょう。生産管理では、クラウド型の動怠システム導入を検討しています。現在のシステムではホスト1台のみでしか管理できないので、数名での管理を目指します。

ゼロからの挑戦

2001年8月23日、株式会社物研は倉庫を全焼する火災に遭った。そのとき、全てを失ったと意気消沈した。しかし、多くの人から激励の言葉をもらった。ゼロになったとき、そこには本当に大切なものが有ることに気づくと思う。人は日々、当たり前なことに気づかない。当たり前がなくなったとき、「日常は決して当たり前ではない」と気づくのだ。有ることが難しいと書いて、「有難い」と読む。つまり、今あることは当たり前でなく、「有難い」こと。だからこそ日々努力しなければ、努力が足りなくて失うことになる。失うことは受け入れ難いかもしれないが、感傷に浸っている暇はない。現実を受け入れ、前を向くしかない。

今回の主要顧客の失脚では、企業活動に必要な売り上げを大きく失い、信頼できる仲間も失った。でも、失ったものばかり見てはいけぬ。残ってくれた仲間やお客様がいて、それを守りたい。前を向いて努力する仲間を誇り、共に行動したい。20年前に経験した喪失感とは違う。あのときよりも多くのお客様や仲間がいること、そしてその仲間と共に新たな仕事にチャレンジできることを喜びと誇りに思う。必ず近い将来、みんなでお話。「あれがあったからこそ、今の成長がある」と。



vol.14 2021年 9月発行

株式会社物研 第39期 社長方針

あらたな領域への挑戦

～現状を肯定的に否定する挑戦者(チャレンジャー)たれ～

序 コロナ禍に思うこと

皆さん、いつもお客様や仲間のためにご尽力頂きまして、心より感謝申し上げます。

国内での感染拡大から約2年近く経過しようとしていますが、収束どころか感染は拡大し、人々の生活や経済活動が犠牲になっています。政府や自治体の対策もすべてが後手に回り、国民の不安を煽るものばかりです。このままでは、アフターコロナと呼ばれる感染収束の頃には、日本は世界に取り残されてしまう

という危機感しかありません。政治的な判断もできておらず、我々国民の安全を第一に考えなければいけない国家が、政治家の私心を第一に行動しています。それに、我々も気づかなければなりません。「無知は人に壁をつくる」という言葉を心に、自分の身は自分で守るべきです。だからこそ、我々国民も多くを学び、視野を広く持つ努力を惜しんではいけません。有事である今こそ、国民として誇りを持たなければいけません。憤りしか感じません。トップのあり方を反面教師に学んでいます。

前期の反省

前期は変化の年となりました。正直、悔しさが残ることは否めません。主要顧客の倉庫移転に伴い、多くの仲間や売り上げを失いました。しかし、我々はその事実を反省し、前に進まなければいけません。そのためにも、過去の努力を見直すことが大事です。「努力が納得いく、最大限のものだったか?」と厳しく、客観的に見つめ直しましょう。私自身の反省として、次の点が挙げられます。

社内でのコミュニケーション不足

どんなこともチームで解決するという、仲間意識の欠落です。「これを言ったら恥ずかしい」という、真の問題解決につながらない私心が、個々の判断基準になっていました。これは、私が創り上げた社風がそもそもの原因だと猛省しています。これからは、部署や立場の垣根を越えた、問題解決ができる「全員経営」をテーマに、風通しの良い社風を創ります。

社長を含む従業員の視野の狭さ

コロナ禍において消費行動が大きく変化しました。我々の物流も大きな変革を迎えていて、「DXをいかに導入していくのか?」が企業成長のカギとなります。DXとは、直訳すると「デジタルによる変容」。今までアナログで行っていた作業を、デジタル技術に置き換えることです。難しく感じるかもしれませんが、それ自身が「視野の狭さ」です。知らないことは、知識を得て理解するしかありません。DXは凄まじいスピードで進化しています。マテハン機器の自動化は、導入している企業が増加していて、取り残されていると言っても過言ではありません。今の時代、この波に乗り遅れるのは死活問題です。だからこそ、一人ひとりの視野を広めることが大切です。

2021 bukken Staff award

第38期 (2020年9月1日~2021年8月31日) 対象

土肥社長から

親愛なる、bukkenスタッフの皆さん。前年度は本当にありがとうございました。awardを獲得された方々の頑張りには心より感謝申し上げます。未だ収束の兆しの見えないコロナ禍において、世の中が閉塞感の萬葉する中、頑張っている皆様に表彰できることに喜びを感じます。今回の表彰を通して、仲間への感謝、自らのやりがいに繋げていただければ幸いです。本当におめでとうございました。感謝・合掌



パート部門 努力賞

本社
千田 祥子様

推薦者コメント

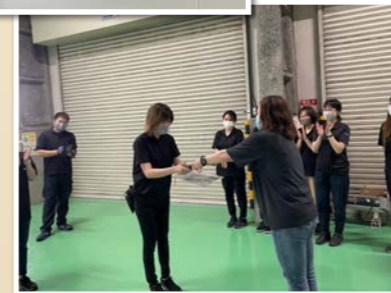
生産管理課リーダー 放示 貴之
入社してからお客様の多いエリアを一人で切盛りして頑張ってくれています。最近では、仕事を教える側に回ったり、大人数の応援に指示を出す仕事までやってくれています。一見落ち着いて見えますが実はテンパっている千田さん。今後は現場を引っ張って行ける様になって欲しいと思い、推薦させていただきます。

フロント業務部主任 岩本尚子
事務所からの依頼や確認事をしっかり行ってくれてお客様へもしっかりしたお返事ができる。何よりハキハキとした受け答えは周りに安心感を与えてくれます。お客様にも「うちの千田がやっているんで大丈夫です!」と自身をもって紹介できるほどの実力派だと思います。入社して間がないですがどんどん知識をつけてどの現場に入っても戦力となる人材。今後の成長にも期待しています。



パート部門 努力賞

和泉センター
岡 満寿美様



推薦者コメント

商品管理課主任 金子正和
和泉センター設立当初から常に率先して嫌な顔せずに作業をこなしてくれます。こちらの段取りの悪さで遅い時間になり作業してもらった時も「ここまで作業を終わらせてください、でない明日の作業がより厳しくなります」と、常に仕事に対して責任感が強く社員も圧倒されていました。和泉センターが大変な時期も率先して作業指示を出して作業を回してくれ、いつも最後まで残り作業をしていただき、逆にこちらが励まされたくらいです。本当にありがとうございます!今後もよろしく願いいたします。

パート部門 フロント努力賞

本社
鈴木 綾子様



推薦者コメント

フロント業務部主任 岩本尚子
仕事に対する姿勢がとても真面目で、お客様とのやり取りもとても丁寧に行えています。周りの状況把握がよくできていて、「あれ、鈴木さんって5年選手やったかな?」なんて錯覚するくらいベテラン感があります。メンバーに意見や指示をはっきり言えるところや違和感など気づいたことは放っておかずに行動や発言してくれるところを評価しました。今後期待することは、お客様と現場の架け橋となり互いの声を情報共有できる環境創りに参加してもらい、アイデアや改善などの意見を形にしお客様に届けられる人材になって欲しいと思います。

社員部門 努力賞

細田 真直美様



推薦者コメント

取締役部長 平松香代子
長年一番仲間に寄り添うことができている優しいスタッフさんだと思います! 昨年末は和泉センターの危機的状況にも、太田さんの支えになり、本社が終わってから和泉に駆けつけ、お休みの日も家族を連れて現場に入り、本当に尽力してくださいました! これからも、仲間と支え合い、笑い合い、素晴らしいフロントを創り上げてください! 追伸:りりいさんも細田さんが大好きです😊

Happy Birthday

9月がお誕生日の皆さんです!
おめでとうございます!

平松 香代子さん 池側 悠磨さん
原田 由希子さん 高岡 妙子さん

